

木質バイオマス燃料 ペレットストーブ

ペレットMini-A

強制排気形半密閉式ペレットストーブ

取扱説明書

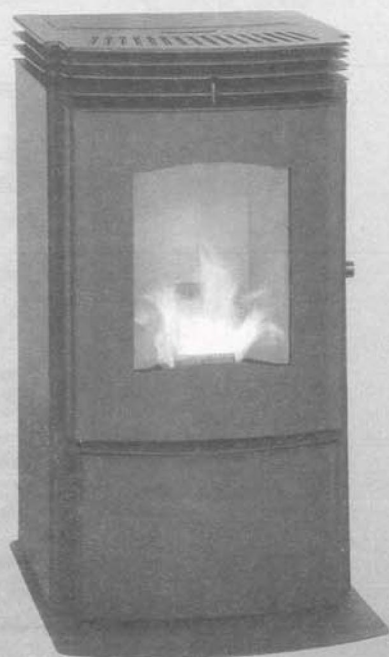
このたびは本品をお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」を
お読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、大切に保管しておいて
ください。

■このストーブは弊社標準施工例(P6)などに
基づいて、給気筒・排気筒を必ず取り付けて
から使用してください。

給気筒・排気筒の据付け・移設工事は必ず
販売店、または弊社指定店などに依頼してく
ださい。

給気筒・排気筒を取り付けずに使用すると
一酸化炭素中毒に至るなど重大な危険とな
るおそれがあります。



もくじ

安全のために必ずお守りください	1~6
使用する場所	6
各部のなまえ	7~8
お使いになる前の準備	9~11
ペレット燃料について	9
供給のしかた	9
点火前の準備と確認	10~11
使いかた	12~15
点火	12~13
火力調節	13
炎の状態	14
送風ファンの停止、再動作のしかた	15
消火のしかた	15
消火後再点火するときの注意	15
灰処理のしかた	16
安全装置	17
点検・手入れ	18~20
故障・異常の見分けかたと処置のしかた	21~22
異常のお知らせ	21
故障かなと思ったときに	22
部品交換のしかた	23
保管(長期間使用しない場合)	23
廃棄するとき	23
仕様	24
アフターサービス	25~26
保証について	25
補修用性能部品について	25
転居される場合	25
据付け	26
保証書	裏表紙



お使いになる前に

使いかた

点検・手入れ・アフターサービス

安全のために必ずお守りください

- お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
- ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

   	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
   	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
 	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

- 説明文中の「お願い」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

警告(WARNING)

★使用燃料は木質ペレット以外厳禁

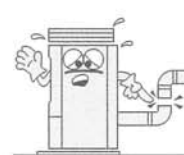
燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災の原因になります。



禁止

★外れ危険

給気筒・排気筒が正しく接続されているか必ず点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



確認

★給気筒トップ・排気筒トップ閉そく危険

積雪の多い地方では、給気筒トップ・排気筒トップが雪でふさがれないように注意してください。
排ガスを再度吸込んで異常燃焼を起こすことがあります。



注意

★かん合部の外れ危険

灰トレイや燃料タンク扉などが確実に閉まっているか確認してください。
外れ・すき間があると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



確認

★燃焼窓開放厳禁

燃焼窓が確実に閉められていることを確認してください。
燃焼中、外れ・すき間があると排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。



禁止

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブに近付けたり、周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



禁止

警告 (WARNING)

★温風吹出口をふさがない

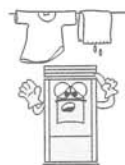
衣類、紙などで温風吹出口をふさがないでください。
異常燃焼や火災の原因になります。



禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
落下した衣類に火がつき、火災の原因になります。



禁止

★ライター・マッチ等で着火しない

やけど・けがの原因になります。



禁止

★着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。



禁止

★本体や内部には水をかけない

ショート・故障・感電・さびの原因になります。



禁止

★災害・停電時は、電源を切り窓を開けて換気をする

この機械は電気式です。停電時は排気ファンがとまったり、煙が出ることがあります。
このような時は、あわてずに窓を開けて換気してください。



指示

⚠ 注意 (CAUTION)

★カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは、使用しないでください。
ストーブ周辺に可燃物を置かないでください。
火災の原因になります。



禁止

★やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によって、やかんの落下や、やかんの熱湯がこぼれ、
やけどのおそれがあります。



禁止

★排気筒延長時の注意

排気筒を1m以上延長する場合は設置条件によってストーブ内の調節が必要となることがあります。販売店にご相談ください。
そのまま使用しますと、異常燃焼の原因となります。



注意

★燃料供給時消火

燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。
火災ややけどのおそれがあります。



消火

★指や異物を入れない

ストーブの内部や燃焼室内及び上面、燃料タンク内には紙、布、プラスチック、スプーンなどの異物を入れないでください。
火災や感電、予想しない事故の原因になります。



禁止

★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは本体左側の「燃焼用空気調整レバー」で調整するか、使用をやめてください。
運転スイッチを押して「切」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。



使用禁止

★高温部に注意

燃焼中や消火直後は、燃焼窓や天板などの高温部に手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。



高温注意

★高温部接触禁止

温風吹出口、排気筒、排気筒トップなどは高温になります。
手などを触れないでください。
やけどのおそれがあります。



接触禁止

★回転体に注意

運転中の燃焼タンク内などに手などを入れないでください。
回転物にはさまれ、けがのおそれがあり大変危険です。



注意

注意 (CAUTION)

★推奨外燃料の使用禁止

木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。
故障や燃焼不良の原因になります。
推奨以外の燃料の使用はストーブに支障をきたす場合があります。



禁止

★燃料たまり点火の禁止

バーナー内に燃料をためた状態で点火させないでください。
不完全燃焼や故障の原因になります。



禁止

★燃料保管方法の注意

雨風の当たらない屋内で保管してください。
湿った燃料を使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。



注意

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、又は保管するときは、必ず燃料タンク内から燃料を抜き電源プラグをコンセントから抜いてください。



指示

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。



電源プラグを抜く

★分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は危険です。



分解禁止

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



指示

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり、束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因となります。



禁止

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



指示

★腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障ややけどのおそれがあります。



禁止

⚠ 注意 (CAUTION)

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、やけどや、部屋の換気などについて、周囲の人が十分に注意してください。



★廃棄するとき

製品を廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。(23ページ参照)

燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。



★温風に直接あたらない

温風や輻射熱に直接長時間あたらないでください。

低温やけどや、脱水症状になるおそれがあります。

温風を直接吸い込まないでください。気分が悪くなる場合があります。



★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。

火災や、排ガスが室内に漏れる原因となり、危険です。



★換気扇使用禁止

ストーブを使用している時は室内で換気扇を使用しないでください。

異常燃焼や、立消えするおそれがあります。



★排気筒トップ付近の可燃物近接禁止

排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。



★可燃性ガス使用禁止

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)、スプレーを使用しないでください。

火災や故障の原因になります。



★高地(標高1000m以上の場所)

酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。

1000m以上の場所では再調整が必要ですので販売店までお問い合わせください。



★お手入れの際は、ストーブ及び排気筒が冷えてからおこなってください。

やけど、けがの原因になります。



★ストーブの表面のお手入れには研磨剤の入ったクレンザーなどは使わないでください。

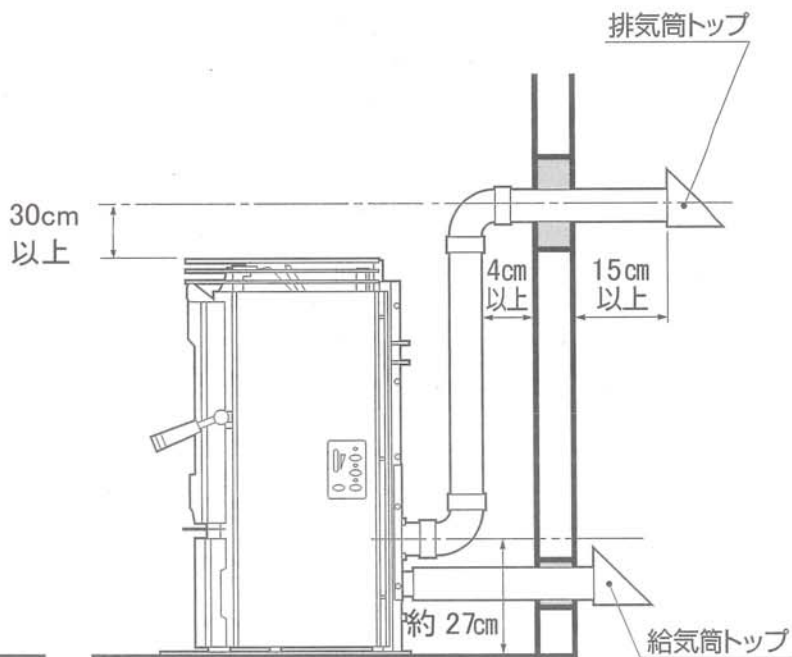
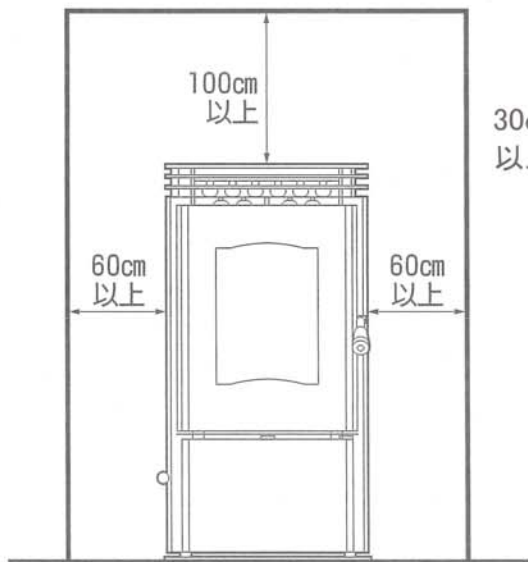
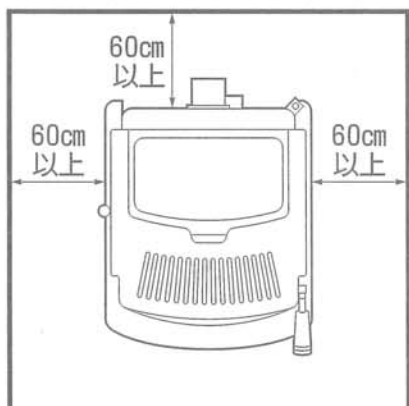
塗装のはがれ、サビの原因になります。



⚠ 注意 (CAUTION)

★可燃物（木壁、合板、ふすまなど）との距離を離す

- 据付けや移設工事は火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守っておこなってください。
 - 据付けや移設工事は、販売店または弊社指定店に依頼してください。
 - ストーブから周囲の可燃物までの隔離距離は下図のようにしてください。
 - 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
 - 特に、カーテンなどが本体にふれないようにしてください。
 - 家具等からは十分な距離をとってください。
- 熱で変形や変色、自然発火することがあります。



～弊社標準施工例～

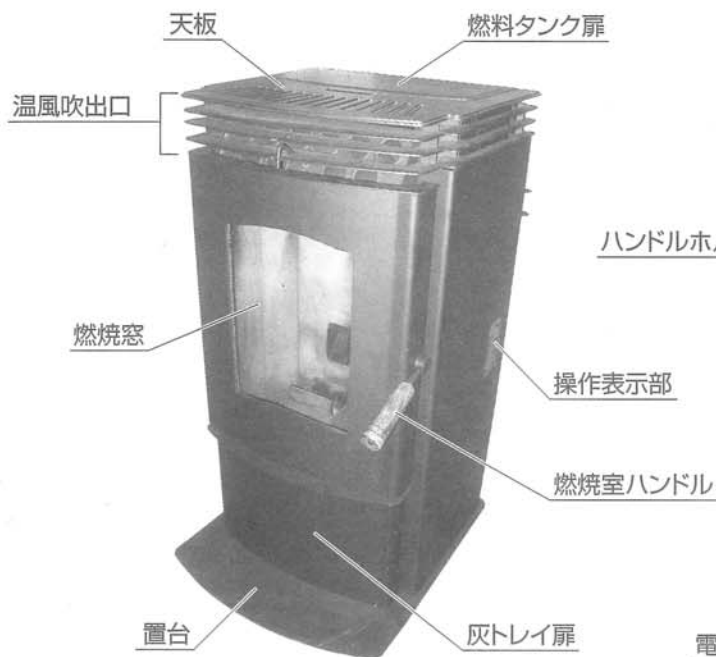
使用する場所

★効果的に使用するために

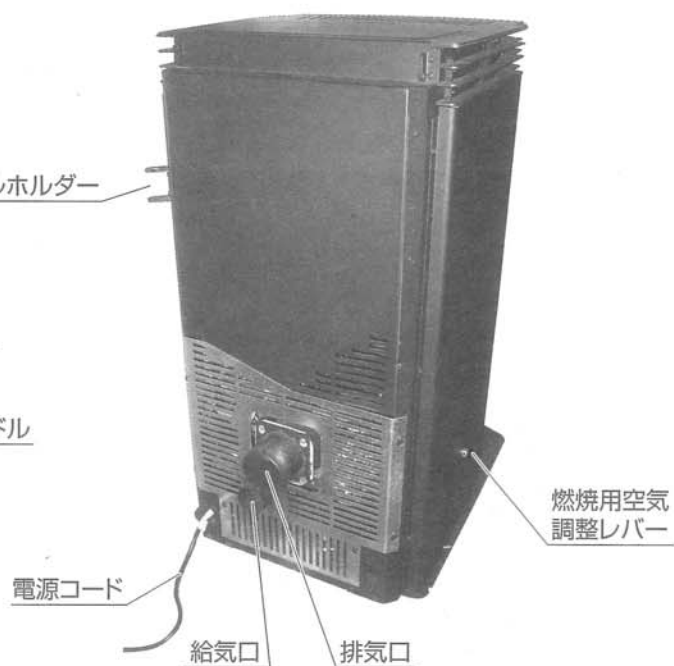
- ストーブの送風ファンを回し続けると、対流効果によってお部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。

各部のなまえ

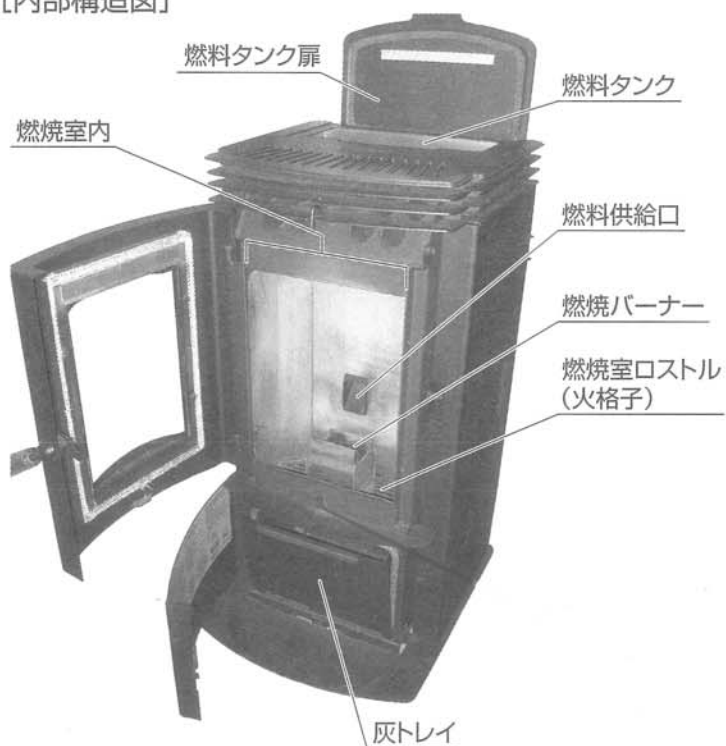
〔正面外観図〕



〔背面外観図〕

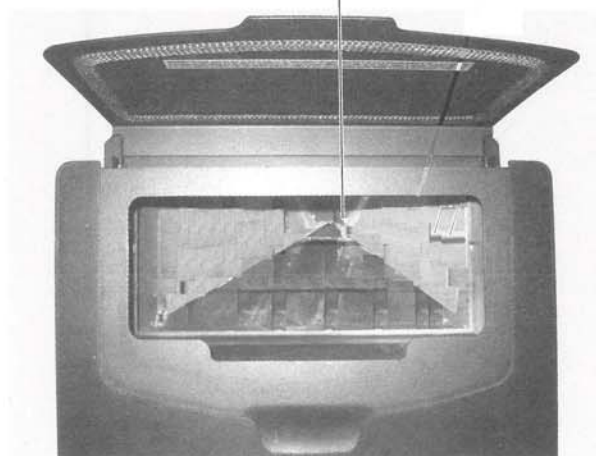


〔内部構造図〕



〔燃料タンク内〕

燃料供給装置 (スクリュー形状)



〔付属品〕

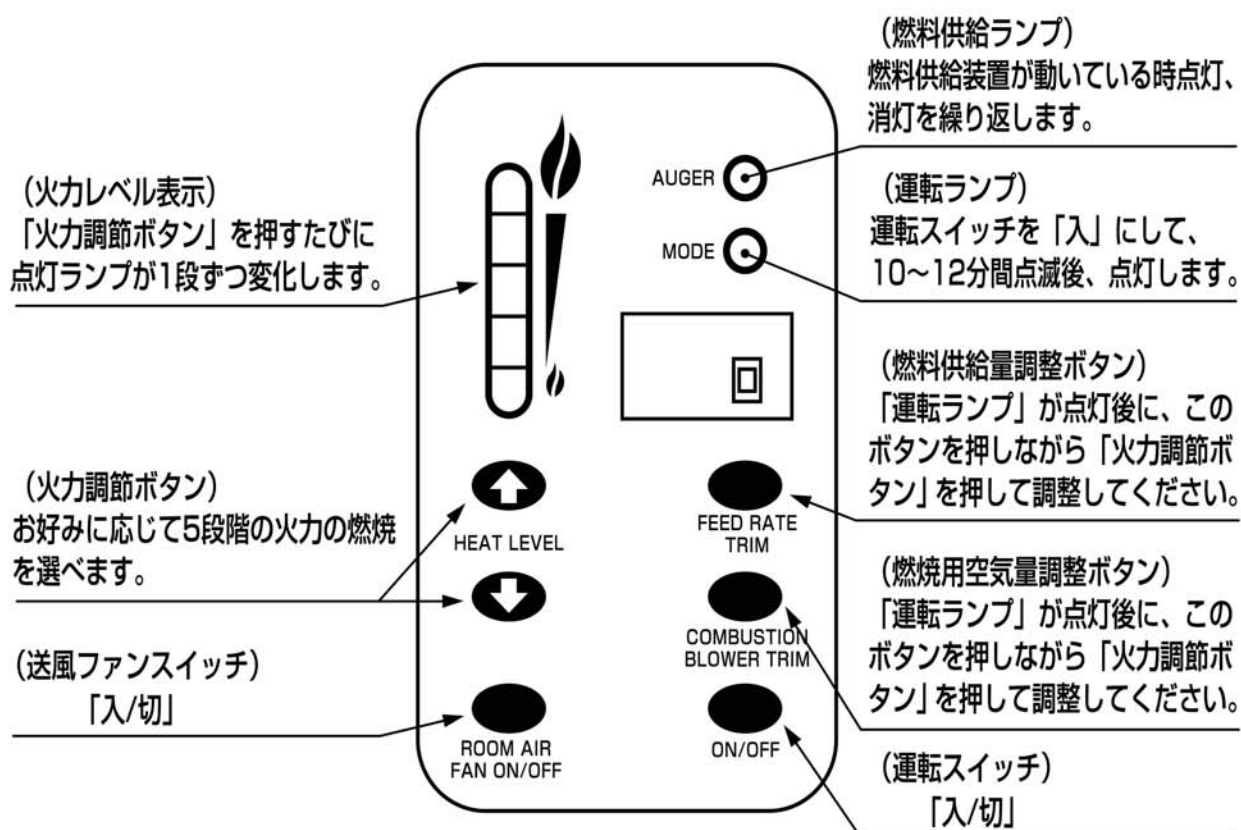


へら棒



掃除用ホウキ

操作表示部



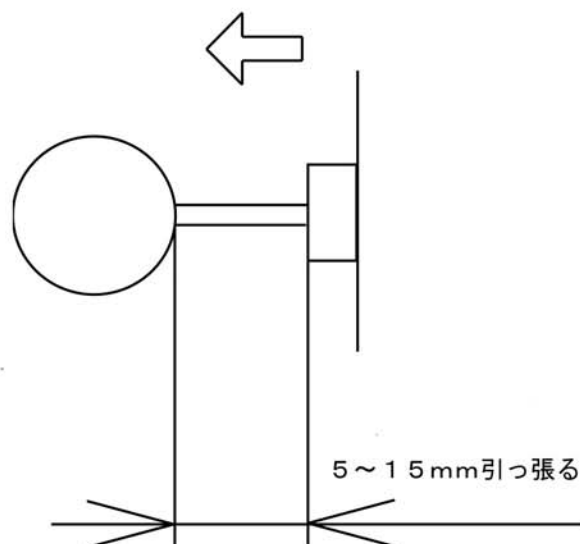
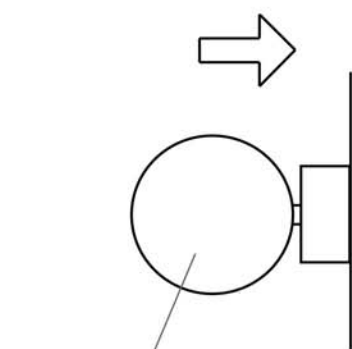
お使いになる前に

燃焼用空気調整レバー

本体左側の下部の黒い丸状ノブ付きの燃焼用空気調整レバーは、下図の様に一旦本体方向へ押し切った位置から、5～15mm程度引き出した位置に設定してください。

①燃焼用空気調整レバーを押し切る

②図の様に、5～15mm分ノブを引っ張る



お使いになる前の準備

木質ペレットについて

●木質ペレットは、推奨燃料を必ず使用してください。

[推奨燃料] ホワイトペレット



警告

★使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災の原因になります。



禁止

- 燃料は、ストーブ側面に記載されている推奨燃料を必ず使用してください。
- 推奨以外の木質ペレットの使用はストーブに支障をきたす場合があります。

- 木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。故障や燃焼不良の原因になります。
- ペレットが粒子状に崩れた粉の多いもの、湿気を帯びたものは、使用しないでください。燃焼不良の原因になります。
- 燃料タンクを空にしないように注意してください。

供給のしかた



注意

★燃料供給時消火

燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。
火災ややけどのおそれがあります。



消火

1 燃料タンク扉を開ける。



2 燃料タンク内に燃料を投入する。

- 燃料タンク上面 1 cm 付近まで投入する。
- 燃料は燃料タンク内に均一になるようにならしながら投入してください。不均一の場合、正常な燃焼をしないことがあります。



3 燃料タンク扉を確実に閉める。

- 燃料タンク扉が確実に閉まっているか確認してください。
燃焼異常を起こすことがあり、危険です。



点火前の準備と確認

— お願い —

- 燃料タンクは空にしないでください。
タンクが空になるまで燃焼させるとすすの発生や燃焼不良の原因になります。
- 設置後初めての使用時、燃料を切らした時などは「燃料供給口」から燃料がでてくることを確認して一旦「運転スイッチ」を「切」にしてから再度「入」にしてください。

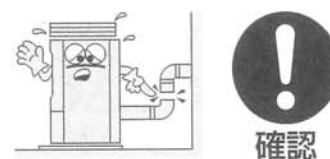
1 ストープ周辺を確認する。

- ストープ周辺及び排気筒の周囲に引火物や可燃物を置かないでください。
火災や予想しない事故の原因になります。



2 給気筒・排気筒が接続されているか確認する。

- 給気筒・排気筒が正しく接続されているか確認してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、大変危険です。



3 燃料が入っているか確認する。

- 燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
- 木質ペレット以外の固形燃料は絶対に使用しないでください。
故障や燃焼不良の原因になります。
- 推奨以外の燃料の使用はストープに支障をきたす場合があります。



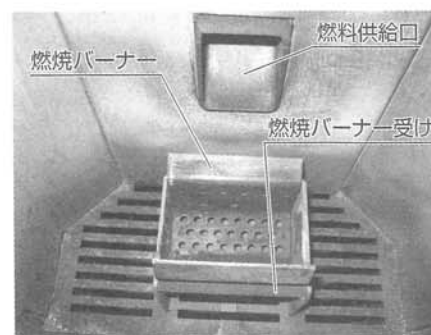
4 燃焼室ハンドルを燃焼窓に取り付け、燃焼窓を開きます。

- 同梱の燃焼室ハンドルを右図のように取り付けます。
- ハンドルを上方に引き上げて、燃焼窓を開きます。



5 燃焼室内を確認する。

燃焼室内に異物がないか、また極度の汚れや灰がないかを確認してください。燃焼バーナーの穴が詰まっていないかを確認し、燃焼バーナーを燃焼バーナー受けに正しく取り付けてください。



～燃焼室内～

お使いになる前の準備

6 灰トレイ、燃烧窓、燃料タンク扉が閉まっているか確認する。

●灰トレイや燃烧窓、燃料タンク扉などを確実に閉めてください。

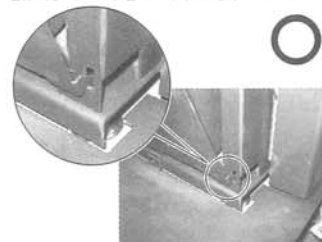
外れ・すき間があると点火不良、燃烧不良を起こしたり、運転中に排ガスや炎が室内に漏れて火災が発生するおそれがあります。



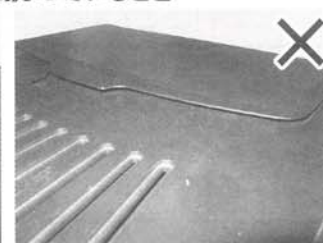
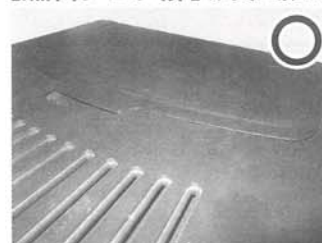
【燃烧窓】確実にロックされていること



【灰トレイ】左右の引っかけにロックされていること



【燃料タンク扉】確実に扉が閉まっていること



7 電源プラグを電気のコンセント（家庭用AC100V）に確実に差し込む。

●電源は必ず100V 7A以上の専用コンセントをお使い下さい。



お願い

★電源プラグを、絶対に、200ボルトのコンセントに差し込まないでください。感電・火災・故障の原因になります。

★コンセントがゆるんでいたり、差し込みが不十分ですと、電源プラグが過熱し、熱変形することがあります。

このようなときは、必ずお買い上げの販売店に修理を依頼してください。

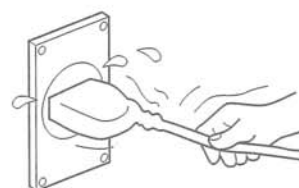
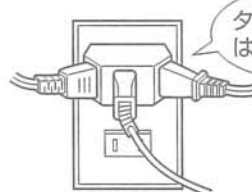
お部屋のコンセントも必ず修理してください。

★電源コードに傷を付けたり、束ねたり、折ったり、重い物をのせたり、加工しないでください。感電や火災の原因になります。

★他の電気器具と同時に使用するときは、ご家庭の安全器（ブレーカー）の容量をこえないようにしてください。

★電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かないでください。断線、発熱、発火の原因になります。

★熱に弱いじゅうたんや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがありますので、熱に強いマットなどを敷いてください。



点 火



警告

★ライター・マッチ等で点火しない

やけど・けがの原因になります。



禁止

★点火剤・着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。



禁止



注意

点火不良で、何回も点火操作をした後に点火すると、燃焼バーナー内にたまった燃料が過剰燃焼して炎が大きくなり、すすが出て異常燃焼します。また燃焼バーナー外に燃料がはみ出して燃焼室ロストル上で燃焼したり、燃焼室ロストルから灰トレイ内へ燃焼殻が落ちたりするので危険です。

このようなときは、あわてずに、「運転スイッチ」を押して「切」にし、たまった燃料が燃えつきるまで待ってください。

電源プラグをコンセントから抜かないでください。



消火

必ず運転スイッチ「入」をして、10～12分後に運転ランプ点灯後に、燃焼用空気量調整ボタン、燃料供給量調整ボタンで調整してください。(13ページ参照)
それでも調整し切れない場合、本体左側「燃焼用空気調整レバー」で調整してください。(8ページ参照)

未調整・誤調整ですと、使用中に火が消えたり、ススが発生したり、燃焼バーナー内に燃焼殻が溜まる場合があります。(故障ではありません)

①「運転スイッチ」を押して「入」にする。

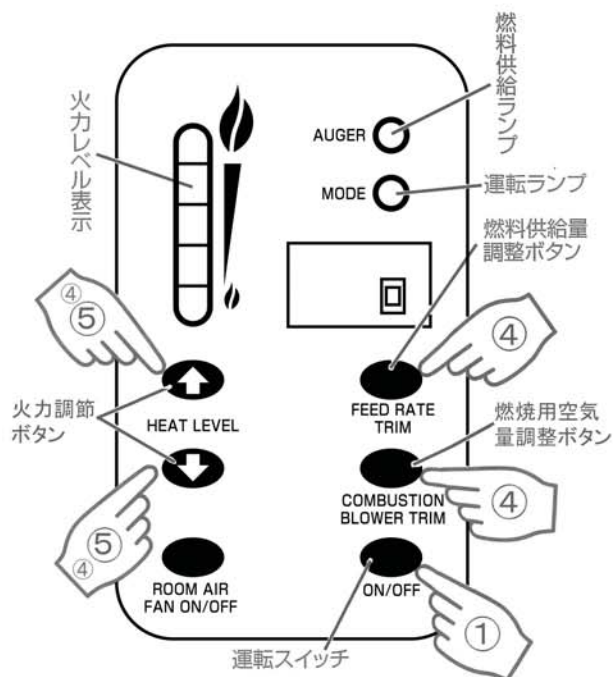
- 燃料供給口から燃料が燃焼バーナー内に投下されるときに、「燃料供給ランプ」が点灯します。

(点灯、消灯を繰り返しますが、異常ではありません。)

お願い

★初めて運転するときや、燃料タンクを空にして燃料補給した後などは、燃料経路内に燃料が満たされていないことより、点火できないことがあります。

- 「運転スイッチ」を「入」にしたあと、10～12分放置して、「火力レベル表示」の3段目が点滅した場合、「運転スイッチ」を「切」にし、再び「入」にしてください。
- 燃料供給口から燃料が出てくることを確認してください。燃料が出てきたら、一旦「運転スイッチ」を「切」にし、再び「入」にしてください。



使いかた

- ② 「**燃烧用空気調整レバー**」の位置を、8ページを参考にして調節する。
(初めて運転するとき、木質ペレット燃料の種類、購入先を変更したとき、点火しにくいときなどに調整が必要となります。)
- ③ 5～10分後に自動的に点火。
 - 「**運転ランプ**」は約10～12分間点滅します。
 - 初期運転終了後に「**運転ランプ**」が点灯します。
- ④ 14ページの燃烧状態を参照して、燃料供給量と燃烧用空気量の微調整をする。
 - 「**燃料供給量調整ボタン**」を押しながら、「**火力調節ボタン**」(「↑」「↓」)を押すと、燃料供給量の設定が変更できます。



- 上記と同様の要領で、「**燃烧用空気量調整ボタン**」を押しながら「**火力調節ボタン**」(「↑」「↓」)を押すと、燃烧用空気量の設定が変更できます。

お願い

- ★点火後すぐは室外に設置している排気筒トップより煙が出ることがありますが異常ではありません。しばらくすると煙は出なくなります。
- ★点火してからしばらくの間(運転ランプが点灯するまで)は初期運転となります。初期運転中は火力調節ができません。燃料供給量調整ボタン、燃烧用空気量調整ボタンでの調整も、初期運転中はできません。また初期運転中は炎が不安定になることがありますが異常ではありません。

火力調節 (初期運転終了後にしかできません)

- ⑤ 「**火力調節ボタン**」を押す。
「**火力調節ボタン**」をお好みに応じて押して調節してください。
「↑」を1度押すごとに火力レベル表示が1段ずつ上がり、「↓」を一度押すごとに1段ずつ下がります。
- ★初めて通電したときや、停電後や電源プラグを抜いて再通電した場合、運転させたときの火力レベル表示は「最下段点灯」を表示します。
 - ★通電したまま消火して再点火した場合、火力レベル表示は消火時と同じ火力を表示します。
(このとき、④で調整した設定もそのままとなります。)
 - ★初期運転中(運転ボタンを押してから約10～12分間)は火力調節ができません。

使いかた

炎の状態(ここに表示した状態は最大燃焼(最上段点灯)の状態です)



注意

すすの発生、炎の色など異常を感じたときは、本体左側の「燃焼用空気調整レバー」で微調整するか、使用を止めてください。
運転スイッチを「切」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。



使用禁止

	正 常	異 常	使用禁止
炎の図		 ～空気不足燃焼～	 ～空気過剰燃焼～
状 態	● 炎の色は、明るい黄色かオレンジ炎。 ● 燃焼バーナー内の燃焼殻が適度に残っている。	● 炎の先端がオレンジ炎でゆらゆら燃えている。 ● 燃焼バーナー内の燃焼殻が溜まり気味である。 ● 燃焼窓のガラスにススが付着する。	● 明るい炎が小さくて、動きが活発である。または炎がバーナーから出ない程小さくなる。 ● 燃焼バーナー内の燃焼殻がほとんど残らない。
原因		● 燃焼用空気不足。 ● 燃料供給量過多。 ● 推奨燃料以外で燃焼した為。 ● 排気経路に灰等が溜まった為。	● 燃焼用空気過多。 ● 燃料供給量減少。 ● 推奨燃料以外で燃焼した為。
処 置		● 燃焼バーナー内の穴の詰まりを掃除する。 ● 排気経路を掃除する。 ● 燃焼用空気調整レバーを少し引く。 ● 販売店にご相談ください。	● 燃焼用空気調整レバーを少し押す。 ● 販売店にご相談ください。
処 置		● 燃料供給量調整ボタンでの調整により、現行設定より「↓」を押して設定を下げる。 ● 燃焼用空気量調整ボタンでの調整により、現行設定より「↑」を押して設定を上げる。 ● 販売店にご相談ください。	● 燃料供給量調整ボタンでの調整により、現行設定より「↑」を押して設定を上げる。 ● 燃焼用空気量調整ボタンでの調整により、現行設定より「↓」を押して設定を下げる。 ● 販売店にご相談ください。

● 初期運転終了後に、正常に燃焼しているかどうか、燃焼窓から見て必ず確認してください。

- ★ 燃焼中、炎がかたよったり火の粉が混ざったり、上下変動することがありますが異常ではありません。
- ★ 燃焼中、「ガリガリ」と音をたてる場合があります。

送風ファンの停止、再動作のしかた



注意

★高温部に注意

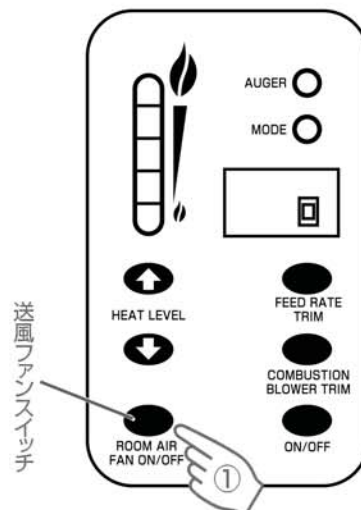
燃焼中や消火直後は、燃焼窓や天板などの高温部に手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。



高温注意

① 送風ファンスイッチを押して、送風ファンを停止させる。

- 購入後初めてお使いになるときや、電源プラグを抜いた状態から再度お使いになるときは、常に送風ファンは「入」状態になります。送風ファンスイッチを押すと、送風ファンが停止し、温風吹出口からの送風が止まります。
- 再度送風ファンスイッチを押すと、送風ファンが再動作します。
- ★部屋の暖房効果を高めるために、なるべく送風ファンは「入」状態で使うことをおすすめします。
- 送風ファンを停止させると、天板が加熱し、やけどのおそれがあります。



消火のしかた

① 「運転スイッチ」を押して「切」にする。

- 消火操作をすると、ランプが全消灯し、燃料供給が止まります。

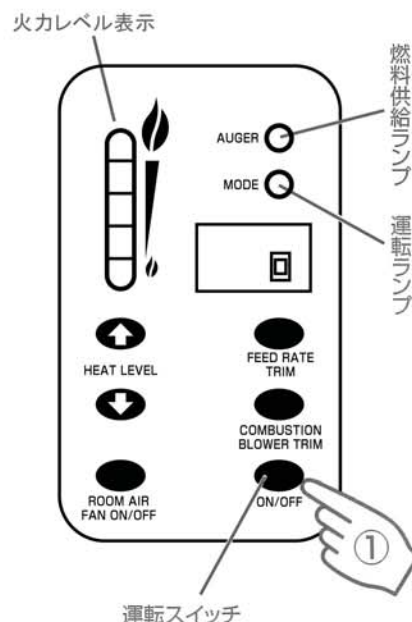
② 消火を確認する。

- 消火操作をしたときは、ランプの全消灯とバーナー内の火が消えることを確認してください。

消火後約30分は燃焼用送風機が回転し続けます。その後自動的に停止します。
燃焼用送風機が止まるまで、電源プラグを抜かないでください。

お願い

- ★消火は必ず「運転スイッチ」を使用してください。
電源プラグをコンセントから抜き取って消火することは、絶対にやめてください。
(機器が過熱する原因になります。)
- ★点火した後すぐ消火することはやめてください。燃焼バーナー内に燃料があふれたり着火しにくくなったりします。15分間位は燃焼してから消火してください。



消火後再点火するときの注意

- ★着火前に「運転スイッチ」を押して「切」にし、再度「運転スイッチ」を押して「入」にした場合、燃焼バーナー内に燃料が多く溜まり、燃料が燃焼バーナー外にあふれ出ることがあります。一度溜まった燃料を外部に出してから再点火してください。

灰処理のしかた

●必ず消火後、ストーブが完全に冷えた状態でおこなってください。

●灰は木灰として、菜園などに有効に活用できます。

廃棄物として廃棄する場合、各市町村によって回収方法が異なりますので、各市町村にご確認ください。

1 灰トレイ扉を開ける。

灰トレイ扉を図のようにして開けてください。



2 灰トレイを引き出す。

灰トレイの中央にあるつまみを時計逆方向に止まるまで回しきってから、灰トレイを引き出してください。



お願い

灰トレイは消火後もしばらくの間は高温ですので、灰処理は灰トレイが完全に冷えたことを確認してからおこなってください。

3 灰トレイの灰を金属容器などに入れてから除去する。

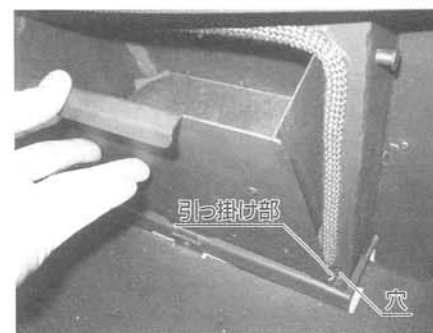
容器に入れた灰は、完全に冷えた状態で処分してください。



4 灰トレイを元に戻す。

灰トレイにある左右の引っ掛け部を本体の左右の穴に入れてから、灰トレイを確実に閉めきってください。

その後、必ず2項で回したつまみを、今度は時計方向に止まるまで回しきってください。

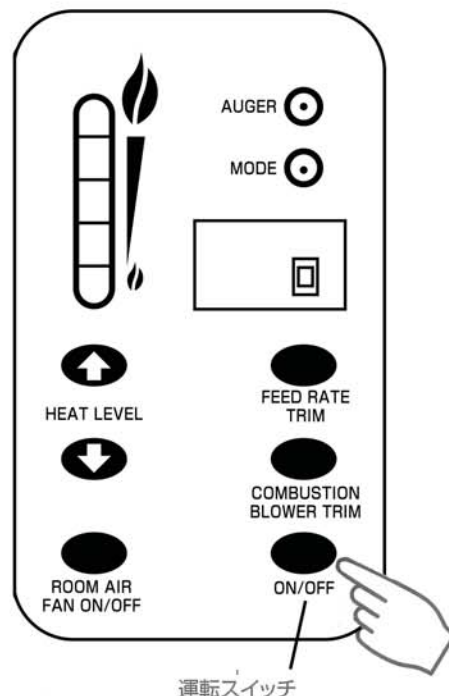


5 灰トレイ扉を閉める。

安全装置

★安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、販売店にご相談ください。

★再点火操作とは、一度「運転スイッチ」を押して「切」にしてから、再び押して「入」にすることをいいます。



安全装置名	はたらき	処置
点火安全装置	●運転スイッチを「入」にして12分経過しても着火しない場合、燃料供給と点火ヒーターを停止させる安全装置です。	●何回も再点火操作をしたときは、燃焼バーナーに燃料がたまっています。たまった燃料を取り出してから再点火操作をしてください。
燃焼制御装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。	●燃料タンクに充分燃料があるか確認してください。 ●燃焼バーナーの穴が目詰まりしていないか、排気経路に灰が詰まっていないかを確認してください。
停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどしたときは、自動的に運転を停止します。	●再通電後に再点火操作をしてください。
過熱防止装置	●異常燃焼などの原因でストーブが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止します。	●異常過熱の原因を除いてから、再点火操作をしてください。 (販売店にご相談ください)
逆圧防止装置	●排気側(排気筒・排気筒トップ)が何らか詰まったり、逆風による逆圧がかかる、もしくは排風装置の不具合等で排気圧が弱くなった場合、燃焼を停止します。	●燃焼室の上部が灰等で閉塞されていないかどうか、確認してください。 ●室外の排気筒トップが閉塞されていないか確認してください。 (販売店にご相談ください)

点検・手入れ

定期点検のおすすめ（1シーズンに1回程度）

長期間で使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、1シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、販売店、又は弊社指定店などに点検を依頼してください。

日常の点検・手入れ

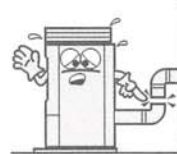
— お願い —

- ★点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、ストーブの温度が充分下がってからおこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。
- ★部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- ★ストーブをベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
- ★電装品や燃焼バーナー受けの取りはずし、分解はおこなわないでください。

シーズンはじめ

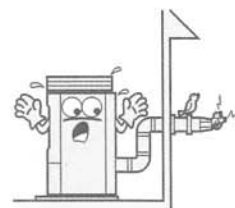
給気筒・排気筒

- 給気筒・排気筒の接続箇所が外れていないか確認してください。



排気筒トップ

- 室外の給気筒トップ・排気筒トップが鳥の巣やビニール袋などでふさがれていないか確認してください。



使用のたびに

周囲の可燃物

- ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
- ストーブはいつも清潔に掃除してください。
汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブのいたみを早めます。
- 給気筒・排気筒・給気筒トップ・排気筒トップの周囲には、危険物や障害物が無いようにしてください。



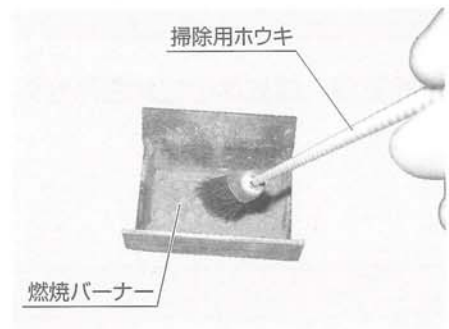
温風送風用パイプのクリーニング

- 本体正面上部の温風吹出口にあるクリーニングロッドを前後に動かし、温風送風用のパイプのクリーニングをおこなってください。



燃焼室の燃焼バーナーに溜まった燃焼殻、灰の除去

- 使用時間や燃料の質・状態によって灰量は異なります。
燃焼室内の燃焼バーナーに灰が溜まっていないか確認してください。
付属の掃除用ホウキなどで燃焼バーナー内及び燃焼バーナーの穴を掃除してください。
- ★燃焼バーナーに灰が詰まった状態で燃焼をおこなうと着火しにくくなります。
また、燃焼に必要な空気が充分に取り入れることができなくなり、不完全燃焼の原因になります。



1 箇月に 1 回以上

燃焼室ロストル(火格子)に溜まった燃焼殻、灰を除去

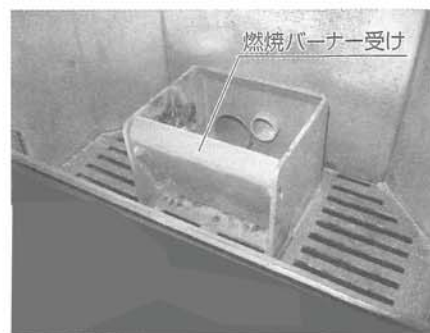
- 燃焼室ロストル上に溜まっている燃焼殻や灰を、ロストルの隙間へ掃除用ホウキなどで掃いて灰トレイ内へ落としこんでください。



燃焼バーナー受けに溜まった灰を除去

- 燃焼バーナーを取り出してから、燃焼バーナー受けを取り出してください。

燃焼バーナー受けに溜まった灰を付属の掃除用ホウキなどで灰トレイに落としてください。



燃焼窓のガラスのクリーニング

- ガラスはススや灰などが付着して汚れてきます。
固めにしぼったぬれ雑巾などでススを拭きとってください。



1 シーズンに1～2回以上

電源プラグ、コンセント

- 電源プラグ、コンセントにほこりや汚れが溜まると火災の原因になることがあります。電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

給気経路・排気経路の清掃

- ほこりやススなどの汚れが給気経路・排気経路に蓄積すると、燃焼に悪影響する場合があります。販売店にご相談して定期的に掃除するようにしてください。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

異常のお知らせ (火力レベル表示の見かた)

安全装置が作動すると、「火力レベル表示」部が「点滅」をして自動停止します。

繰り返し表示するときや再運転しないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

火力レベル表示	点滅の意味	処置方法
 中央段が点滅	● 燃焼中に消火しました。(途中失火) ● 点火不良です。(不着火)	● 燃焼バーナー内を一度きれいに燃料や灰などを除去してから再点火操作してください。 ● 燃料タンク内に燃料を入れてください。また、燃料供給装置上のみ燃料がなくなっていることがありますので、付属のへら棒などで燃料タンク内の燃料を均一にならしてください。 ● 最小燃焼時に推奨外燃料及び湿気を含む燃料を使用した際に、立ち消えすることがあります。燃料を推奨燃料に替えてから再点火してください。 ● 空気過多により、燃焼バーナー内の火種が途中で消えることがあります。燃料供給量調整ボタン、燃焼用空気調整ボタンで調整してください。それでも調整が不足でしたら、本体左側の燃焼用空気調整レバーで調整してください。 ● 燃焼室、灰トレイを確実に閉めてください。 ● お買い求めの販売店までご連絡ください。
 下から2段目が点滅	● 排気経路の不具合です。	● 排気出口の灰詰まりの場合、灰を除去してください。 ● 本体燃焼室上部を掃除してください。 ● お買い求めの販売店までご連絡ください。

故障かなと思ったときに

現象 原因	電源ランプが点灯しない	点火しない	炎が立ち上がらない	炎が大きくなならない	黄火で燃える	使用中立消えする	火力レベル表示のエラー表示		処置方法
									
電源プラグをコンセントに差し込んでない	○								電源プラグをコンセントに差し込む
停電した	○								停電復帰後再点火操作をする
逆圧防止装置が作動した								○	屋外の排気出口を掃除する 本体燃焼室内の上部を掃除する
燃料タンクに燃料がない		○	○				○		燃料タンク内に燃料を投入する
燃料タンク内に粉がたまっている		○	○				○		掃除機等により、燃料タンク底に溜まった粉を除去する
ストーブ内の温度が高い	○								本体の周囲の障害物を取り除いてください 本体の温度が下がってから再点火してください 販売店にご相談ください
灰トレイ、燃料窓、燃料タンク扉に外れやすき間がある					○				確実に閉める
排気筒トップ先端がふさがっている		○			○			○	遮へい物を取り除く
推奨外燃料を使った		○	○	○	○	○	○		推奨燃料に入れ替える
燃焼室内、燃料バーナー内に燃焼殻や灰が溜まっている		○	○		○		○	○	掃除して灰などを除去する

●処置されてもなおらない場合は、使用を中止し、販売店又は弊社指定店にご相談ください。

部品交換のしかた

部品交換のときの注意

- 部品交換や修理をお受けになる場合は、販売店もしくは弊社指定店で修理されることを推奨します。
- ★不完全な修理は危険です。
- ★故障したものは使わないでください。
- 短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。
- ★部品は必ず純正部品をご使用ください。
- ★部品を交換するときは、ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

保管のしかた（長期間使用しない場合）

- ★ストーブを保管する場合は、18ページ **点検・手入れ** の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。
- ★いたんでいる箇所は、必ず修理をしてから保管してください。

- 1 ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜く。
- 2 燃焼バーナー内、燃焼室内、灰トレイ内、電源プラグに付着した灰、ほこりや汚れを固くしぼった濡れ雑巾などで取り除く。
- 3 器具の表面をよくふいて、汚れを取る。
 - 固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。（シンナー、ベンジン等ではふかないでください。）
- 4 ストーブは据付けたまま保管する。
 - 取り外して保管するときは必ず販売店もしくは弊社指定店に依頼し、湿気の少ない所に保管してください。
 - ★取扱説明書を必ず保管してください。

廃棄するとき



注意

ストーブを廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。



指示

- ★燃料タンク内の燃料の抜きかたは下を参照してください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

大量に残っている場合は、燃料タンクから抜き取ってください。特に燃料タンク底に木粉が溜まっている場合は、掃除機等で必ず除去してください。少量の場合は、運転させて燃やしきってください。

仕 様

名 称	ペレットMini-A	
区 分	半密閉式ペレットストーブ	
種 類	燃 焼 方 式	直接送風燃焼式
	給 排 気 方 式	強制排気形
	用 途 別 方 式	強制対流形
使 用 燃 料	木質ペレット※ ¹	
点 火 方 式	電気点火(温風点火式)	
発 熱 量※ ²	最 大	6,000kcal/h
	最 小	2,500kcal/h
熱 効 率	80%	
暖 房 出 力※ ²	最 大	5.6kW (4,800kcal/h)
	最 小	2.3kW (2,000kcal/h)
燃 料 消 費 量※ ²	最 大	1.4kg/h
	最 小	0.6kg/h
外 形 寸 法 (キャビネット寸法)	高 さ	868mm
	幅	503mm
	奥 行	632mm
質 量	87kg	
燃 料 タ ン ク 容 量	21kg	
電 源 電 圧	AC100V(最大電流4.1A)	
定 格 消 費 電 力	点 火 時	337W/337W
	燃 焼 時	93W/97W
安 全 装 置	停電安全装置、点火安全装置、燃焼制御装置、	
	過熱防止装置、逆圧防止装置	
附 属 品	掃除用ホウキ(1)、へら棒(1)	

※¹ 使用燃料はストーブ側面に記載されている燃料をご使用ください。

(推奨燃料はホワイトペレットです。)

それ以外の燃料でのご使用は燃焼不良を起こしたり、途中失火したり、エラーで止まる場合があります。弊社、および販売店にてご相談ください。

※² 燃料の状態により発熱量・暖房出力・燃料消費量が異なることがあります。

アフターサービス

保証について

★保証期間はご購入の日より1年間です。

修理を依頼するとき

- 故障・異常の見分けかたと処置のしかた(21ページ)に従って、お調べください。直らないときは、ご使用中止し、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入の販売店、もしくは弊社指定店にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ① 品名…半密閉式ペレットストーブ
 - ② 名称…ペレットMini-A
 - ③ お買上げ年月日
 - ④ 故障の状況(できるだけ具体的に)
 - ⑤ おなまえ・おところ・電話番号
- 裏表紙の規定にしたがって、販売店、または弊社指定店が修理させていただきます。
- 保障期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

この取扱説明書とストーブに表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障、事故につきましては、保証いたしません。

補修用性能部品について

- ★ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後7年です。
- 補修用性能部品とは、ストーブの機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

★電源周波数の異なった地域への転居でお使いいただく時、高地への転居、高地からの転居は再調整が必要ですので販売店、または弊社指定店までご相談ください。



注意

故障・破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。



分解禁止



注意

修理、引越などでストーブを運搬される時は、燃料タンク内の燃料を抜いてください。



確認

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、販売店、または弊社指定店、裏表紙の販売元までお問い合わせください。

据付け・移設について

- ストーブを設置する場所には、建築基準法や電気設備に関する技術基準、消防法に基づく火災予防条例に定められた設置をする必要があります。
- 施工上の責任は当社では負いかねます。

■据付け・移設工事は弊社指定店に依頼する。

据付けや移設工事は弊社指定店に依頼し、お客様ご自身ではおこなわないでください。

【無料修理規定】

1. 取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、お買上げの販売店または弊社指定店が無料修理致します。
2. 取扱説明書に記入してある販売店に修理を依頼できない場合は、販売元までお問い合わせください。
3. 保証期間内でも、次の場合は有料になります。
 (イ) 取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意事項に従わない誤った使用、及び不当な修理や改造による故障や損傷。
 (ロ) お買上げ後の、器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障や損傷。
 (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧、公害その他環境要因による故障や損傷。
 (ニ) 推奨外の燃料の使用による故障や損傷。
 (ホ) 部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。

保証書	
保証期間 本体1年間 ※お買上げ日 年 月 日 ※お客様 姓 名 様 〒 〇〇〇-〇〇 〇〇 ご住所 〔電話 () 〕	本保証書は本書記載内容(上記)により無料修理をおこなうことをお約束するものです。 お買上げの日から保証期間内に故障が発生した場合は、本保証書と併せてお買上げの販売店に修理をご依頼ください。 ※販売店 所・電話番号
※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は無効となりますから必ずご確認ください。	

愛情点検	★長年ご使用のペレットストーブの点検を!	●ペレットストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年です。
	ご使用の際このようなことはありませんか ●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常に長い。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。	ご使用中止 故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型 式	ペレットMini-A	お買上げ年月日	年 月 日
お買上げ店名	(電話番号) () -		